

三月二二日

今日は学校は休みにした。学生達の疲れが眼に見えてきたから。皆弱くなってしまってる。かく言う私も弱くなっているから、当然朝はゆっくりさせてもらってる。昨日東京は大風が吹いて世田谷村は大あわてだったらしい。やっぱり一家の主人が居ないとジタバタするんだなと、かえってホツとする。しかし自然はあなどれない。

ワークショップの将来像に関して、具体的なプロジェクトを加メンバーで進めてゆくの理想である事は確かだ。しかし参加者の能力水準の現実的な低さがそれを不可能にする。学生の指導は若い先生達にほぼ任せて、私は十人ぐらいの社会人職人チームを作り、実際の建築を作ってゆくのはどうか。学生の教育と社会人の現実的可能性とは異なる。一プロジェクト毎に解散できる設計事務所のバリエーションがとれば良いが、どうか。私の事務所とワークショップを融合させることは可能か。少なくともそのセクションを作ったほうが良いなコレワ。

佐藤健に電話。心配である。西域には絶対に行くと言う。どうすれば良いか本当のところ解らぬ。難問に直面した。午後スクールでガウデイ小論一〇枚書く。今考えるガウデイは昔考えていたガウデイとは違う。未完という事と廃虚は関係があるな。コロニアグエル地下礼拝堂の意味がチョツと解けたような気がする。

ワークショップは沖縄で継続する可能性が出てきたと連絡があ

った。どうなる事やら、いつもフレキシブルに外に開きながら可能性は追いかけて行きたい。少し喰べて休みたい。

三月二三日

朝四時前に眼覚めてしまう。疲れているのに長く眠れないのは体力が落ちてきたからだろう。仕方ない。今日は午後福岡に出て宮本さんと打ち合わせ。安藤に担当させようと考えているのだが、当然不安である。何故俺のここに来てアノコチコチが融けないかな。融ける兆しも無い。他の院生のような青臭い小便臭さが無いのが良いのだが、それだけじゃね。マ、もう少し我マンして使ってみよう。アノ固さを解放してやるのも仕事のうちか。デザインは頭だけで理解しても駄目で、身体で特に手で考えることができないと、柔軟にはなれない。安藤は頭と手がバラバラなままだ。あ向井は予想通りにしぶとくのびている。将来私のスタッフにできるかなと考えている女性を二人九州のワークショップに参加させてテストしているのだが、こいつ等がのびてくれないと私も不自由になるからな。建築家とそのスタッフの問題は大事な事なのだ。何だかグチになってきた、もう一眠りしよう。

高木正三郎のレクチャーを聞いて、福岡宮本さんへ。安藤同行。ネクサス石山棟一〇一号室。娘さんに初めて会った。元気な良い娘じゃないか。これは心配しないで良い子供だ。二時間半の打合わせで大方の方向性は視えてきた。十六時過ぎ佐賀へ戻る。

三月二四日

今日から子供モノづくり教室開校。宮崎現代つ子センターの藤野忠利さんの力で開校しているが、もう少しつめれば面白いのは解っているのだが、私の方に力のゆとりがない。朝十時開校のあ

いさつを五十一名の子供達にして、私は引下がる。これは藤野さんに任せておけば良ろしい。

気が付けば今日は日曜日である。

独人で諸々のエスキスをすすめる。

森の学校の第一ステップのアイデア固める。宮本さんの家エスキスすすめる。オープン・テック・ハウスの進路がチヨツと視えてきた。夜山田脩二と再会。

三月二十五日

早朝日経原稿書く。朝食は山田脩二とおかゆ。朝第一講山田脩二。相変わらず写真が見事。

第二講坊城俊成、第三講森川嘉一朗。昼食は山田脩二等同じで。今日は天気も良く春日和である。